

2018年9月7日
株式会社セブン銀行

業績予想修正のお知らせ

当社は2019年3月期の業績予想を修正しましたので、お知らせいたします。

1. 修正の内容

①連結通期（2018年4月1日～2019年3月31日）

	当初計画	修正計画	差異
	億円	億円	億円
経常収益	1,467	1,472	+5
経常利益	398	399	+1
特別損失	1	146	+145
親会社株主に帰属する当期純利益	268	128	△140

②単体通期（2018年4月1日～2019年3月31日）

	当初計画	修正計画	差異
	億円	億円	億円
経常収益	1,196	1,196	0
経常利益	425	425	0
特別損失	1	219	+218
純利益	294	140	△154

2. 修正の理由

海外事業において、**株式買収時に発生したのれん等を特別損失**として計上する見込みとなったことを主因に、今期の業績予想の修正を行います。

3. 特別損失の計上について

①連結

海外事業に係る固定資産（米国の連結子会社である FCTI, Inc.の株式取得時に発生したのれん等）について減損損失 14,596 百万円を特別損失として計上する見込みです。

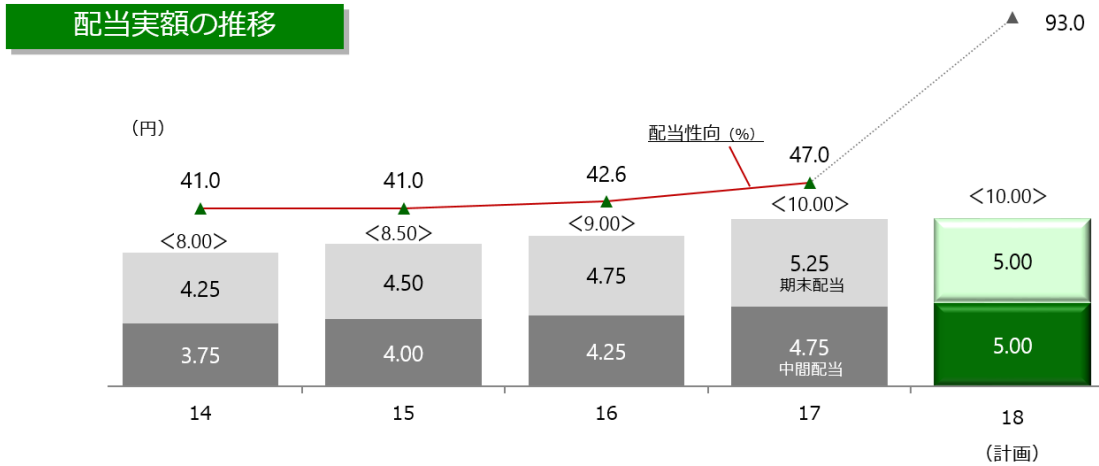
②単体

海外子会社2社の株式取得額と時価の差異である関係会社株式評価損 21,877 百万円を特別損失として計上する見込みです。なお、関係会社株式評価損につきましては、連結決算上消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

4. 配当の状況

2018年5月11日に公表した1株当たり年間10円の配当予想に変更ありません。
従来より、当社は株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要施策の一つと認識しております。

今後も配当額を安定的に増加させつづけることを基本方針とし、利益還元を着実に強化してまいります。











- ✓ 今回公表した減損損失は臨時かつ非現金支出費用
- ✓ 業績及び資金の状況及び財務体質の健全性などを総合的に勘案

当社の持続的成長をめざし、2017年5月に策定した中期経営計画の海外事業の方針は変更せず、推進してまいります。特にFCTI社は2017年8月よりスタートした米国セブン-イレブン店舗への約8,000台のATM設置を2018年3月に完了いたしました。この基盤を活用し、早期収益化を実現すべく努めてまいります。

※本件のくわしい内容については、2018年9月7日発表の「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

<ご参考> のれん等の減損損失による影響

項目	影響		備考
	当年度	次年度以降	
FCTI社利益			【当年度】減価償却負担▲約10百万\$の経常利益プラス影響 【次年度以降】減価償却負担▲約20百万\$の経常利益プラス影響
連結利益			【当年度】特別損失（のれん等の減損損失）により当期純利益▲約145億円のマイナス影響 【次年度以降】のれん等償却負担がなくなるため、経常利益で約10億円のプラス影響
ROE （株主資本利益率）			【当年度】一過性の減益により、ROEはマイナス影響 【次年度以降】当期利益が増加することにより、ROEにプラスに影響
EPS （一株当たり利益）			【当年度】一過性の減益により、EPSは低下 【次年度以降】当期利益が増加することにより、EPSは向上

注）影響欄の↑↓の表記は、あくまでものれん等の減損損失を「行った場合」と「行わなかった場合」との比較であり、その他の要因は一定と仮定して記載しております。

本資料に記載されている業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上